日本心臓病学会誌 編集委員長就任のご挨拶

井上　博
Hiroshi INOUE, MD, FJCC
富山大学大学院医学薬学研究部内科学第二

平成22年11月より日本心臓病学会誌（和文誌）の編集委員長に就任いたしました．学会誌が平成20年に英文誌化され（Journal of Cardiology）また平成22年には症例報告のオンラインジャーナル誌（Journal of Cardiology Cases）が刊行され，和文論文の投稿は大きくその数を減じています．英文誌が出来ても，年間3号とはいえ和文誌の刊行を継続して行くというのが本学会の方針です．

専門医として修練中の若手医師にとって，いきなり英文で論文を書くことは骨の折れることでしょう．母国語である日本語でまず書いて，論文の書き方を学ぶことが修練上必要です．日本語で論文を書いて，指導医の手直しを受ける．投稿したものがそのまま採用されることはまずなく，査読者から様々な指摘を受ける．指摘が強烈過ぎて書き直しすることなく，あきらめてそのままにしてしまう．あるいは指摘に対して，データを練り直したり文献を調べ直したりして，論文を完成させる．この様な作業を繰り返すことにより，論理的な記述が出来るようになり臨床家として成長してゆくはずです．

症例報告を受け付ける雑誌が少なくなっていますが，臨床には症例の積み重ねが重要で，その中から新しい疾患概念が提案されてきました．古くは川崎富作先生の川崎病，近くは佐藤光先生のたこつぼ心筋症が，症例の積み重ねにより新しい疾患概念が確立されたよい実例です．和文誌の症例報告欄を是非活用して下さい．

学会誌は新しい知見の報告の場であるばかりではなく，会員の教育にも大きな役割を果たすことが求められています．そのため，和文誌では原著，症例報告に加えて，総説，「私はこう考えるシリーズ」，今月の画像，Book Reviewなどを掲載しています．循環器の中の狭い専門領域の殻に閉じこもらずに，循環器専門医としての知識の整理に「日本心臓病学会誌」和文誌を活用していただきたいと思います．

今後3年間の任期中に，前任の鄭編集委員長の築き上げた本誌の価値を一層高めるため，編集委員は任務に邁進する覚悟でおります．会員の皆様には和文誌の意義を御認識頂き，本誌を大いに利用していただければ幸いに存じます．